

2022 年度 事業計画書



タンザニア 聖アンナ・ミッション病院の元奨学生

目次

1. 新年度の抱負	1
2. 中期計画における位置づけ	2
3. 海外諸活動	2
[3 - 1] 海外派遣	2
(1) タンザニア 雨宮春子ワーカー (看護師・助産師)	2
(2) 短期	3
[3 - 2] 奨学金事業	3
[3 - 3] 協働プロジェクト	10
(1) SALT (次世代のための健康と衛生) プロジェクト	10
(2) シロアムプロジェクト	10
(3) ママ・ナ・ムトトプロジェクト	11
[3 - 4] 災害救援復興支援	12
4. 国内諸活動	12
[4 - 1] 国際保健人材育成	12
[4 - 2] 国内啓発及び国際協力に関する協働を育む活動	12
[4 - 3] マーケティング	14
5. 運営体制	16
[5 - 1] 社員総会	16
[5 - 2] 理事会	16
[5 - 3] 委員会	16
[5 - 4] 事務局	17

1. 新年度の抱負

会長 畑野研太郎

コロナ禍も3年目を迎えました。

世界中がこの感染症によって脅かされ、多くの方が亡くなり、悲しみに包まれ、生活の糧を奪われ、社会的にも困難の中で暮らすことを余儀なくされておられます。JOCSを通して世界の「小さくされている人々とみんなで生きる」を実行して下さっている皆様も、様々な困難に出会われていると思います。心からの共感を込めて、すべての人びとのために祈りたいと思います。(この災禍が始まった時、2年は続くものと思いましたが実際には3年目を迎えました。スペイン風邪と同様に、今年度で終息してもらいたいと願います。)

この間、いろいろ考え、本も読み、知者の意見にも耳を傾けてきました。それは、コロナ後の世界がどのようなものとなり、JOCSはどのように対処していくかを考えるためでした。初期のころから、「世界のすべての人にワクチンを」という運動にも参加させていただきました。どこかに大流行地が存在し続ける限り、新しい変異株が生まれることは必然だからです。事実、次々と新しい変異株が生まれ、私たちもその波に飲み込まれて右往左往してきました。

コロナ後の世界を思い描くときに、新しい私たちの在り方を考えないではいられません。危機に生きることを改めて意識させられた私たちは、分かれ道の前に佇んでいるように思います。一つは固く自分を閉じて自らの安全をのみ求める道であり、もう一つは努力と工夫で他者と結びつく道であると思います。そしてJOCSは、たとえ困難な道であっても、後者の道を歩み続けなくてはなりません。

岩本直美ワーカーは、ラルシュの決まりにより、長く働いたマイメンシンを離れ、新しい働きの模索を始めています。再赴任した雨宮春子ワーカーも第一期の働きを続けています。奨学生たちは、困難な条件に縛られつつも、生まれ育った地域の方々の健康を守るための学びを続けています。JOCSは奨学金事業の予算を増額して協力しています。協働プロジェクト事業も同じく、困難の中に置かれていますが、現地のパートナー団体がその働きを続けてくださっています。この2年間は、災害救援復興支援費を増額し、私たちよりもさらに困難な状況の中で歩む世界の友人たちを支援してきました。これらの事業は継続していきます。

コロナ禍に限らず、私たちは常に危機と直面して生きています。生き延びていき、真に生きるためには、世界の人々と共に「みんなで生きる」生き方を拓けていく以外には道はないと思い定めて歩む年にしようと祈ります。

2. 中期計画における位置づけ

2022年度は5カ年計画2018の最終年となる。「取り残された一人ひとりを捜し、苦悩と喜びを分かち合う」というビジョンに向かい、活動を進めていく。

海外諸活動においては、日本国内とは異なる海外での感染状況を見極めながら海外渡航の再開を検討する。コロナ禍による活動の遅れを取り戻すべく活動を進めると同時に、コロナ禍においても積極的に活動を展開した奨学金事業をより一層推進する。タンザニアは一時帰国していたワーカーの再赴任により、変更した計画に基づいて母子保健分野の活動を進める。バングラデシュをはじめとする各国の支援要請については積極的に事前調査を進めていく。

国内諸活動においては、コロナ禍の収束を見据えながら、JOCSの使命に強く共感していただける支援者を増やすための施策をとる。新型コロナウイルス感染防止の諸施策を継続するために、対面でおこなうことのできる活動は当面は限られるが、オンラインミーティングをはじめ、従来からある会報誌やホームページ、電子メールなど様々なコミュニケーションツールを駆使して活動を進めていく。

3. 海外諸活動

海外派遣事業ではバングラデシュのワーカー派遣要請の事前調査を進め、タンザニアの一時休止していた活動を再開する。渡航制限のために、現地に赴いてのモニタリングをしていなかった奨学金事業はモニタリングを再開し、各国ごとの最新の状況を把握して事業を展開する。協働プロジェクトはコロナ禍による遅延を取り戻すだけでなく、次の展開のための検討を進める。

[3-1] 海外派遣

バングラデシュからのワーカー派遣要請の検討を進める。タンザニアでは、雨宮春子ワーカーが新型コロナウイルス感染症の拡大防止策をアドバイスしながら、聖ヨハネ・パウロ2世病院での母子保健活動を進める。

また、引き続き将来のワーカー派遣希望者を発掘する。

(1) タンザニア 雨宮春子ワーカー（看護師・助産師）

派遣先 : TAHO (Tabora Archdiocesan Health Office : タボラ大司教区保健事務所)
St. John Paul II Hospital (聖ヨハネ・パウロ2世病院)

派遣期間 : 2019年1月～2023年4月

活動概要：ママ・ナ・ムトプロジェクト（協働プロジェクト）の活動。TAHO が実施するセミナーとスーパービジョンの支援をおこなう。

1) ママ・ナ・ムトプロジェクト

- ① TAHO 傘下の保健医療施設で、状況把握のために継続して基礎調査と同じ項目のデータ収集と分析を実施する。
- ② 聖ヨハネ・パウロ 2 世病院での活動
 - ・母子に対する健康教室、保健指導を実施する。妊婦健診、産褥健診、新生児健診、保健医療施設で出産することの重要性をテーマとして実施する。健診に関しては、早期の受診開始がされ、総受診回数が増加するように働きかける。
 - ・医療従事者に対する、技術と知識の向上・標準化・定着のためのトレーニングおよびマニュアルや掲示物、教材作成などを通して、適切なケアを提供するための体制作りをする。トレーニング内容は、妊婦健診、産褥健診、新生児健診、分娩時の新生児処置、分娩介助、分娩時の入院からの流れ（情報収集と助産診断）、病棟での産褥ケアと新生児ケア、産後の退院指導、新生児蘇生法、分娩監視装置（妊娠中と分娩中の母体子宮収縮と胎児心拍数を観察する器械）の使用方法和モニター判読方法などを予定。

聖ヨハネ・パウロ 2 世病院での活動状況と効果を見て、2022 年の 7 月頃から、ほかの 8 つの保健医療施設での普及活動を開始予定である。

2) TAHO での活動

- ① TAHO が四半期に一度、傘下の保健医療施設を対象に実施しているスーパービジョン（巡回視察）に参加する。
- ② TAHO が年に一度開催するセミナーの準備や実施を支援する。

(2) 短期

2022 年度は、バングラデシュのワーカー派遣要請の事前調査のため、短期ワーカーを派遣する。2022 年度事業計画策定の時点ではほかに具体的な派遣予定はないが、常に要望調査をし、必要に応じて派遣を検討する。

[3 - 2] 奨学金事業

2021 年度からの継続としてインドネシア、カンボジア、ネパール、バングラデシュ、ウガンダ、ケニア、タンザニアの奨学生を支援する。2022 年度募集では、引き続きコロナ禍で影響を受けている各国の状況を踏まえ、協力団体のニーズを考慮して支援を進める。

(1) インドネシア

田村久弥元ワーカーや塚本香代元ワーカー、長尾真理元ワーカーの派遣先であった GKST、GMIM、ICAHS 傘下にある保健医療施設で働く職員 12 名を引き続き支援する。病院の認証取得に必要とされる人材育成の要請に対して積極的に支援する。

- * GKST (Gereja Kristen Sulawesi Tengah : 中部スラウェシキリスト教会)
- * GMIM (Gereja Masehi Indjili Minahas : ミナハサ福音教会地域保健サービス部)
- * ICAHS (Indonesia Christian Association of Health Service : インドネシア・キリスト教保健サービス協会)

(2) カンボジア

カトリックプノンベン司教区下にある CCHS の医師 1 名の病院管理学修士号の取得を引き続き支援する。プノンベン司教区では数年後に病院建設を計画しており、その病院の管理をする人材の育成が求められているため、この奨学生を支援しているが、病院建設計画の進捗を確認するとともに、ほかに必要な人材の育成の有無を調査する。

- * CCHS (Catholic Community Health Services : カトリックコミュニティ保健サービス)

(3) ネパール

岩村昇元ワーカーをはじめ、これまで JOCS がワーカーを派遣したことのある HDCS、TLMN アナンダバン病院、UMNMDT とこれらの組織の傘下にある病院で働く保健医療従事者 18 名を継続して支援する。支援先の病院はいずれも基礎的な人材が揃いつつある。政府の政策にも掲げられている上級資格および専門医などの人材育成のニーズに応じて、長期雇用が見込まれる病院職員の上級資格・専門資格取得に対して積極的に支援する。

- * HDCS (Human Development and Community Service) ネパールにあるキリスト教系 NGO
- * TLMN (The Leprosy Mission Nepal) ネパールにあるハンセン病患者のために活動するキリスト教系 NGO
- * UMNMDT (United Mission to Nepal Medical and Development Trust : ネパール合同ミッション) キリスト教系国際 NGO

(4) バングラデシュ

乾真理子元ワーカーの派遣先であるカイラクリ・ヘルスケア・プロジェクト (通称カイラクリ・クリニック) で働く 4 名を支援する。奨学生は、仕事を続けながら 3 年間で医療助手の資格取得を目指す。2022 年度は、1 名の研修が終了予定である。カイラクリ・クリニックでは創立者の故ベーカー医師から技術を学んだ村人らが無資格のパラメディック (*) として医療サービスを担ってきた。ベーカー医師亡き後、医療技術の維持・向上に加え、

団体存続のために有資格者が必要となっている。

*パラメディックとは准医療従事者の意

(5)ウガンダ

ウガンダは1980年代後半から20年以上内戦が続き、慢性的な医療人材不足の問題を抱えている。2022年度はUPMB傘下の4名を継続支援する。また、SRDの6名も継続支援する。

*UPMB (Uganda Protestant Medical bureau) ウガンダ聖公会、セブンスデー・アドベンチスト、ペンテコステの3教派が連携し、302の医療施設を統括する全国規模のネットワーク組織

*SRD (South Rwenzori Diocese: ウガンダ聖公会南ルウェンゾリ教区)

(6)ケニア

協働プロジェクトの協力団体であるシロアムの園の理学療法スタッフの支援を継続する。週末のパートタイムコースで学び、2022年度に理学療法学士を取得する予定である。

(7)タンザニア

雨宮春子ワーカーの派遣先であるTAHO傘下にある保健医療施設で働く23名を継続して支援する。

TAHO傘下の保健医療施設では保健医療従事者の不足が深刻で、政府が定めている各医療施設の医療従事者数を満たしているところは1つもない。基本的な短期研修を受けただけで資格を持たずに働いているスタッフも多く、医師補、看護助産師、薬剤師など保健医療施設のニーズに沿って基礎的な分野での研修志望が多い。

雨宮ワーカーの主な活動先であり、協働プロジェクト「ママ・ナ・ムト」の活動拠点となる聖ヨハネ・パウロ2世病院の人材育成を最優先に支援する。JOCSでは、TAHOの計画を尊重しながら支援をおこなう。

*TAHO (Tabora Archdiocesan Health Office: タボラ大司教区保健事務所)

2022 年度支援予定奨学生一覧

インドネシア (12名)

職業	年齢	性別	団体名	研修内容	研修期間
看護師	40	女	ICAHS Estomihi Hospital	看護学	2019年09月～2022年10月
看護師	44	女	GKST Sinar Kasih Hospital	看護学	2020年07月～2022年06月
看護師	42	女	GKST Sinar Kasih Hospital	看護学	2020年07月～2022年06月
病院ボランティア	20	女	GKST Sinar Kasih Hospital	医学	2020年07月～2025年07月
医療助手	25	女	GKST Sinar Kasih Hospital	助産学	2020年07月～2023年06月
病院ボランティア	20	女	GKST Sinar Kasih Hospital	医学	2020年08月～2025年07月
病院ボランティア	21	女	GKST Sinar Kasih Hospital	医学	2020年08月～2024年07月
病院ボランティア	20	男	GKST Sinar Kasih Hospital	看護麻酔学	2020年08月～2023年08月
病院ボランティア	19	女	GKST Sinar Kasih Hospital	医学	2020年08月～2025年08月
看護師・公衆衛生 事業責任者	44	男	ICAHS Lende Moripa Christian Hospital	看護学	2020年09月～2023年03月
看護師	33	男	GKST Sinar Kasih Hospital	看護学	2021年07月～2022年06月
医師	34	女	GMIM Kalooran Amurang Hospital	医学(小児科専門)	2022年02月～2025年12月

カンボジア (1名)

職業	年齢	性別	団体名	研修内容	研修期間
医師	37	男	Catholic Community Health Services	病院管理学(修士)	2020年12月～2022年12月

ネパール (18名)

職業	年齢	性別	団体名	研修内容	研修期間
看護師	27	女	UMN Okhaldhunga Community Hospital	看護学	2018年08月～2022年11月
医師	36	女	United Mission Hospital Tansen	病理学	2019年06月～2022年06月
准看護助産師	33	女	HDCS Lamjung District Community Hospital	看護学	2019年09月～2023年03月
歯科助手兼准看護 助産師	26	女	HDCS Chaurjahari Hospital Rukum	歯学	2019年11月～2023年03月
補助看護助産師	31	女	United Mission Hospital Tansen	看護学	2020年09月～2023年03月

2022年度支援予定奨学生一覧

看護師	27	女	TLMN Anandaban Hospital	看護学	2021年12月～2024年12月
看護師	25	女	UMN Okhaldhunga Community Hospital	看護学	2021年12月～2024年12月
補助看護助産師	38	女	United Mission Hospital Tansen	看護学	2022年01月～2023年12月
検査技師助手	39	男	United Mission Hospital Tansen	臨床検査学	2022年01月～2023年12月
看護師	24	女	UMN Okhaldhunga Community Hospital	看護学・看護教育	2020年12月～2022年05月
検査技師	30	男	HDCS Lamjung District Community Hospital	臨床検査学	2022年06月～2026年06月*2
看護教師	34	女	United Mission Hospital Tansen	看護学(修士)	2022年04月～2024年03月*2
看護師長	46	女	United Mission Hospital Tansen	看護学(修士)	2022年04月～2024年03月*2
看護師・部長	33	女	UMN Okhaldhunga Community Hospital	看護学(修士)	2022年04月～2024年03月*2
看護師	33	女	UMN Okhaldhunga Community Hospital	看護学	2022年05月～2025年05月*2
看護師	27	女	HDCS Lamjung District Community Hospital	公衆衛生学	2022年04月～2024年03月*2
看護師	36	女	TLMN Anandaban Hospital	救急看護研修	2022年04月～2022年06月*2
看護師	28	女	TLMN Anandaban Hospital	助産研修	2022年04月～2022年06月*2

バングラデシュ (4名)

職業	年齢	性別	団体名	研修内容	研修期間
モニタリング担当	43	男	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2020年01月～2022年12月
パラメディック	33	女	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2022年01月～2024年12月
パラメディック	33	女	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2022年01月～2024年12月
パラメディック	35	女	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2021年01月～2023年12月

ウガンダ (10名)

職業	年齢	性別	団体名	研修内容	研修期間
准医師	42	男	SRD Kinyamaseke HCIII	公衆衛生	2018年08月～2022年06月
看護助手	36	女	UPMB Bwindi Community Hospital	看護学	2019年12月～2022年06月

2022年度支援予定奨学生一覧

医師	29	男	UPMB Ruharo Mission Hospital	産婦人科学(修士)	2020年08月～2023年05月
准看護師	32	男	UPMB Diocese of Northern Uganda	看護学	2021年03月～2022年06月
准看護師	33	男	SRD St. Paul's HC IV	麻酔学	2021年03月～2022年12月
准看護師	27	男	SRD Buhaghura HC III	医学	2021年03月～2024年03月
准助産師	27	女	SRD Kanamba HC III	助産学	2021年03月～2022年07月
看護助手	38	女	UPMB Amai Community Hospital	看護学	2022年02月～2024年07月
超音波検査士	31	女	SRD Rwenswabe HC	超音波診断学	2021年08月～2024年07月
准看護師	32	女	SRD St. Paul's HC IV	医学	2022年01月～2024年12月

ケニア (1名)

職業	年齢	性別	団体名	研修内容	研修期間
理学療法士	29	男	The Garden of Siloam	理学療法学	2018年09月～2022年07月

タンザニア (23名)

職業	年齢	性別	団体名	研修内容	研修期間
シスター、病院管理責任者	44	女	TAHO Ndala Hospital	病院管理学	2017年10月～2022年10月
シスター、医師補	38	女	TAHO Ndala Hospital	医学	2018年08月～2023年08月
シスター、医師補	45	女	TAHO AMUCTA Dispensary	医学	2018年10月～2023年10月
医療助手	23	男	TAHO Mwanzugi Dispensary	医学	2019年09月～2023年03月
医師助手	21	男	TAHO Mwanzugi Dispensary	薬学	2019年09月～2022年09月
事務	35	女	TAHO Mwanzugi Dispensary	看護助産学	2019年10月～2022年10月
カルテ管理助手	28	男	TAHO St.John Paul II Hospital	データ管理	2019年10月～2022年06月
医療助手	26	男	TAHO St.John Paul II Hospital	医学	2019年10月～2022年10月
医療助手	25	男	TAHO St.John Paul II Hospital	看護学	2019年10月～2022年10月
司祭	36	男	TAHO Ndala Hospital	薬学	2020年11月～2023年11月
医療助手	24	女	TAHO Ndala Hospital	看護学	2020年11月～2023年11月
司祭	31	男	TAHO St.John Paul II Hospital	病院管理学	2020年11月～2023年11月
医師補	28	男	TAHO St.John Paul II Hospital	医学	2020年11月～2025年11月

医療助手	22	男	TAHO St.John Paul II Hospital	臨床工学	2020年11月～2023年10月
医療助手	31	女	TAHO St.John Paul II Hospital	医学	2020年11月～2025年11月
医療助手	30	女	TAHO St.John Paul II Hospital	看護助産学	2020年11月～2023年10月
医療助手	19	女	TAHO Ndala Hospital	薬学	2021年10月～2024年09月
医療助手	20	男	TAHO Ndala Hospital	医学	2021年10月～2024年09月
医療助手	26	女	TAHO Ndala Hospital	医学	2021年10月～2024年09月
医療助手	29	女	TAHO St.Ann's Mission Hospital	看護助産学	2021年10月～2024年09月
司祭	34	男	TAHO St.John Paul II Hospital	医学	2021年10月～2024年09月
医師補	26	男	TAHO St.John Paul II Hospital	医学	2021年10月～2026年09月
会計	30	女	TAHO St.John Paul II Hospital	会計学	2021年11月～2024年11月

*1 職業欄の職務・職種は奨学金申請時のもの

*2 コロナ禍による研修開始の遅れにより、研修期間は見込みの時期

[3-3] 協働プロジェクト

ケニアとタンザニアのプロジェクトを継続実施する。コロナ禍による活動の遅延のために、2回目の期間延長が決定したケニアのシロアムプロジェクトでは、次の展開に注視しながら支援を継続する。タンザニアのママ・ナ・ムトトプロジェクトの最終年は、コロナ禍の影響を加味して変更した新たな活動実施計画に基づき活動を進める。カンボジアのSALT プロジェクトは、渡航制限のため延期していた事後評価の実施を計画している。

また、引き続き新規協働プロジェクトの発掘形成調査をする。

(1)SALT (Sokkapeap Anamai La-or sumrup samai Thmey : 次世代のための健康と衛生) プロジェクト

対象国 : カンボジア
活動地域 : バッタバン州
プロジェクト期間 : 2014年10月1日～2019年9月30日 (終了済み)
協力団体 : バッタバン司教区ヘルスセンター
受益者 : バッタバン州内の16小学校および8中学校の高学年生
プロジェクト目標 : 小中学校への巡回指導による健康教育を通じて、子どもたちの健康促進を目指す

小学校、中学校を対象として、健康教育、思春期教育を実施し、2019年9月をもってこのプロジェクトは終了した。JOCSの協力終了時点では、バッタンバン司教区では独自資源を用いて活動を継続する予定であった。また、学校における活動のみならず、村落での成人女性を対象とした健康教育も開始したいとの意向があった。その後のコロナ禍により、協働プロジェクト終了後の自立発展性の検証のための事後評価実施が遅れているが、2022年度には実施する予定である。

(2)シロアムプロジェクト

対象国 : ケニア
活動地域 : キアンブ地方行政区 インデンデル地区
プロジェクト期間 : 2016年4月1日～2023年3月31日 (7年間)
協力団体 : コイノニアミニストリー シロアムの園
受益者 : シロアムの園の療育事業に登録される、身体、知的、精神、認知力などの発達に障がい(重複障がいが多い)のある子どもおよびその家族
プロジェクト目標 : シロアムの園において、療育事業の基礎が確立される

2020年度および2021年度は新型コロナウイルス感染防止のため、通常の療育が一時中止となっていた。2021年度に終了時評価を実施し、プロジェクトは2023年3月31日ま

で延長となった。シロアムの園は施設での療育活動に加え、スタッフの能力強化、子どもの認知機能や発達能力を測るアセスメントツールの強化、新施設の建築および移転に取り組む。JOCSでは2023年のプロジェクト終了に向けて通常のモニタリング調査に加え、7年間の活動成果やプロジェクト目標の達成状況を総括する。

(3) ママ・ナ・ムトプロジェクト

対象国 : タンザニア
活動地域 : タボラ州タボラ大司教区
プロジェクト期間 : 2018年4月～2023年3月(5年間)
協力団体 : TAHO (Tabora Archdiocesan Health Office : タボラ大司教区保健事務所)
受益者 : TAHOとその傘下の10の保健医療施設(病院や診療所など)
プロジェクト目標 : TAHO傘下の保健医療施設において、母と子が適切な出生前、分娩時、出生後および新生児ケアを受けることができる。

パイロットプロジェクトとして聖ヨハネ・パウロ2世病院を対象に以下の活動を継続しておこなう。分娩の取り扱いがあるほかの保健医療施設への普及活動を開始する。

- 1) 母子保健スタッフが個別に保健指導、健康教室を実施するための体制ができる
 - ① 個別保健指導、健康教室実施の基礎となるマニュアル作成
 - ② 個別保健指導で妊産婦への説明用パンフレットの作成
 - ③ 啓発ポスターの作成
- 2) 母子カードの活用が促進される
 - ① 台帳・母子カードの正確な記載方法習得のオンサイトトレーニング(個別開催研修)
 - ② 母子保健スタッフの助産知識・技術の向上(勉強会、オンザジョブトレーニング(実地研修)、マニュアル・パンフレットの作成)
 - ③ セミナー、スーパービジョン(巡回指導)の実施
- 3) 母子保健スタッフが分娩期の胎児の心拍、陣痛の管理ができる
 - ① 分娩監視装置の勉強会実施(座学研修、実技トレーニング)
- 4) 母子保健スタッフの新生児蘇生法の知識と技術が向上する
 - ① 新生児蘇生法勉強会の教材作成
 - ② 新生児蘇生法勉強会の実施(座学研修、実技トレーニング)
- 5) 母親が出生前、出生後、新生児ケアを受けることおよび保健医療施設で分娩することの重要性を認識する
 - ① 母子保健スタッフによる個別保健指導の実施
 - ② 母子保健スタッフによる健康教室の実施

活動内容およびスケジュールは、活動の進捗にあわせてTAHO、聖ヨハネ・パウロ2世病院および雨宮ワーカーと協議の上、柔軟に調整する。

[3 - 4] 災害救援復興支援

JOCS の支援対象となる多くのアジア・アフリカの国では、ワクチン接種もあまり進んでおらず、新型コロナウイルス感染症のパンデミックに対処するための支援要請が続くものと思われる。そのため、2022 年度も引き続き応えていく。また、新型コロナウイルス感染症以外の自然災害等での災害救援への支援要請があった場合にも、要請に基づき支援を検討する。

4. 国内諸活動

新型コロナウイルス感染防止のため、各種活動のオンラインでの実施、在宅での実施など、代替手段により活動を進めてきたが、2022 年度は、感染拡大の収束を視野に入れた活動の準備を始める。

[4 - 1] 国際保健人材育成

保健医療分野の国際協力に興味があり、将来その分野での活動を希望する人を発掘し、育成するために各種人材育成活動をおこなう。

新型コロナウイルス感染防止のため、実施を見送ってきたスタディツアーなどについて、2022 年度は新型コロナウイルス感染症の拡大もしくは収束状況を考慮しながら実施に向けて動き出す。同時に、国際保健医療勉強会などは、居住地にかかわらず参加できるというオンライン実施のメリットを活かしてオンラインで実施する。

(1) 国際保健医療勉強会

国際保健医療協力活動に携わることを希望する人を対象に、2022 年度も 4 回の勉強会を開催する。新型コロナウイルス感染防止のため、オンラインにて実施する。また、従来どおり勉強会後に派遣希望者相談会をおこない、ワーカーの発掘・育成に努める。

(2) スタディツアー

将来的に JOCS のワーカーをはじめ、国際保健医療協力の分野で働くことを希望する者を対象に、新型コロナウイルスの感染状況を考慮しながら、2022 年度はタンザニア・タボラ州へのスタディツアーを実施する。タンザニアでは、協力団体であるタボラ大司教区保健事務所や雨宮春子ワーカーの活動地である聖ヨハネ・パウロ 2 世病院を中心に訪問する予定である。

[4 - 2] 国内啓発及び国際協力に関する協働を育む活動

日本国内において、世界の困難な環境におかれた人々の状況の周知、及び国際協力活動

に関する支援及び協働を育む機会の提供として、活動をおこなう。2022年度は、新型コロナウイルス感染症の収束を視野に入れて、事務局やイベントにおけるボランティア活動の再開に向けて準備をする。同時に、オンラインや在宅で実施することが効果的な活動は、その状態をこれからも継続する。

(1) 使用済み切手運動

新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、切手整理ボランティア活動の再開に向けて準備をする。再開できるようになった後は、これまでどおり、子どもから高齢者まで誰もが気軽に参加できる国際協力活動として、より多くの人に参加してもらうため、広報活動をおこない、使用済み切手収集、ボランティア体験の機会を広げていく。また、使用済み切手収集に加え、書き損じハガキ、外国コインの収集もあわせておこなっていく。

1) 各地のスタンプショウへの参加

スタンプショウ 2022 2022年4月（都立産業貿易センター台東館）

2) 書き損じハガキキャンペーン

切手整理ボランティア活動再開後、JOCSの書き損じハガキ収集の強化月間を設け、ホームページ等の広報を通じて、書き損じハガキキャンペーンをおこなう。

(2) 講師派遣プログラム

学校、幼稚園、社会福祉協議会などに講師を派遣する。先方の要望をよく聞き取り、その内容を反映させたプログラムを準備する。毎年派遣の依頼を受けるところでは、前年度の講師派遣の記録を確認し、講話内容の重複を避ける。

保健医療系の学校等から、専門知識を要する講義などの依頼を受ける場合は、必要に応じて現・元ワーカーや理事に講師を依頼する。

新型コロナウイルス感染防止のため、オンラインによる講話や、視聴覚データの送付の依頼にも適宜対応できるよう準備をする。

(3) 事務局訪問受入

学校、幼稚園、社会福祉協議会、地域や企業のボランティアグループなどの希望に応じ、アジア・アフリカの保健医療事情やJOCSの保健医療協力活動、使用済み切手運動について学ぶ機会を提供する。新型コロナウイルス感染症の収束の見通しがつくまでは事務局訪問の受け入れはおこなわないが、オンラインによる講話や、視聴覚データの送付の依頼にも適宜対応できるよう、準備をする。

(4) 国際協力イベント参加

2022年度はグローバルフェスタ JAPANに出展を予定している。掲示物等を工夫して人の集まるブースを目指し、JOCSの認知度を高める機会としたい。

(5) ネットワーク／アドボカシー活動

2022年度も「国際協力 NGO センター (JANIC)」「関西 NGO 協議会」「カンボジア市民フォーラム」「障害分野 NGO 連絡会 (JANNET)」のメンバーとして、情報交換や、一団体では実施困難な活動をおこなっていく。

また、JANIC のワーキンググループ「公益法人に関する NGO 連絡会」「組織マネジメント」への参加と「NGO 非戦ネット」「『新型コロナに対する公正な医療アクセスをすべての人に！』連絡会」の呼びかけ人としての活動も継続していく。

(6) 創立 60 周年記念事業準備

創立 60 周年を迎えた 2020 年度に、記念事業として活動紹介 DVD の作成を計画していたが、新型コロナウイルス感染防止のため延期になっている。2023 年度以降に作成することを検討しており、2022 年度は作成に向けて必要な準備をおこなっていく予定である。

(7) 地区ボランティア活動

日本の各地で JOCS を支援するための自主的な活動をする地区 JOCS などのグループおよび個人と協力し、JOCS の、アジア・アフリカで医療に恵まれない地域の人々と共に生きるためにおこなっている活動を広報し、支援者を増やす。また、地区ボランティア活動をおこなっている団体および個人とのオンラインミーティングを開く。

[4-3] マーケティング

新型コロナウイルス感染防止のために制限していた対面での活動の再開を計画する。さらに、コロナ禍で有効に活用することを学んだ、オンラインのマーケティング手法を駆使して対面以外での広報も進める。SNS や Web の効果的な活用方法の研究も進める。また、これまでと同様に、会報誌やホームページなどによる広報を通して、支援者に活動の進捗を伝えるようにする。これらの活動を支えるためにも、一層のプレスリリースの活用、ホームページやパンフレット類の改善、物語データベースの構築を進める。

(1) 会報誌「みんなで生きる」

支援者への説明責任を果たすとともに、活動への理解と共感を得るために、年 6 回（偶数月 10 日）発行する。

海外 3 事業（ワーカー派遣、奨学金支援、協働プロジェクト）の活動報告では、現地の協力団体や、現地の方々の声を多く掲載するように努める。そのほか、国内活動の案内・報告や、国内の支援者の声も掲載する。

(2) 年次報告書

6 月に A4 版の冊子形態で発行する。会員と、過去 5 年以内に寄付のあった支援者に会報誌・夏期募金趣意書を同封し郵送する。

支援者に 1 年間の活動について報告し、会費・寄付の使途を知ってもらうとともに、支

援を継続してもらうことを目指す。

毎年受け取る支援者に飽きさせないページ構成とする。また、現地受益者、協力団体スタッフや、ワーカーと共に生きる人々、日本国内の支援者の声を多く掲載する。

(3) プレスリリース

株式会社 PR TIMES の社会貢献活動であるプレスリリース配信サービスの無償提供プロジェクトを活用し、JOCS の活動についてのプレスリリースを定期的におこなう。

(4) 雑誌広告

キリスト教共感層に対して JOCS の認知度を上げ、活動を知ってもらい、新しい支援者を獲得するために、キリスト教雑誌『百万人の福音』『信徒の友』等に 1 ページ広告を掲載する。JOCS の活動への共感を得られるようなストーリーを中心とした「読み物」の広告とする。現地の受益者の声などを中心に掲載する。

また、JOCS 支援者層と購読者層が重なると思われる婦人之友社発行の『婦人之友』誌に、引き続き広告を掲載し、新たな支援者獲得をねらう。

(5) キリスト教書店での広報活動

いのちのことは社直営のキリスト教書店で、店舗内電子ポスター掲示（東京店）と書籍購入者へのチラシ配布（東京、大阪、通販部）をおこなう。

また、日本各地のキリスト教書店でチラシ配布や店頭での活動紹介イベントをおこなえるよう働きかける。

これらの活動により、キリスト教共感層にアプローチし、JOCS の認知度を上げるとともに新規支援者獲得を目指す。

(6) 教会訪問

新型コロナウイルス感染症収束後の教会訪問に向けて、理事や希望する会員に対して、活動報告会の講習をオンラインで実施する。新型コロナウイルス感染症が収束した場合は、教会で活動報告会を開催し、支援のお願いをする。

(7) 募金

夏期募金については、募金趣意書を、例年のように年次報告書を同封して支援者に送付する。

冬期募金については、募金趣意書を、支援者に送付する。例年送付先としていた使用済み切手寄付者へは、切手収集活動の再開状況に合わせて送付を検討する。

募金趣意書は、寄付がどのように役立っているのか、また今後どのように使われるのかを支援者が具体的にイメージできるようなものとする。また、冬期募金は趣意書を単独で郵送するので、受け取った人が開けたくなるような封筒を作成し使用する。

(8) 遺贈

2021 年度に続いて、高齢層の読者が多い雑誌『明日の友』に遺贈に関する広告を掲載する。JOCS の活動の認知度を高めるとともに、遺贈パンフレットの請求数増加を目指す。支援者向けには、夏期・冬期募金趣意書で遺贈パンフレットを案内する。

(9) 物語データベース作成

物語データベースの運用方法を検討する。

(10) オンラインマーケティング（Web、SNS の活用）

コロナ禍におけるコミュニケーション手段としてオンラインツールを活用してきたが、これからも、若年層への広報や、遠隔地における広報手段として、Web や SNS を効果的にマーケティングに活用していく。

5. 運営体制

公益法人としての責任を果たしながら、JOCS の使命に邁進できるよう総会、理事会、委員会、事務局の体制を整える。

[5 - 1] 社員総会

第 61 回定時社員総会を、2022 年 6 月 11 日（土）に日本キリスト教海外医療協力会の東京事務局会議室にて開催する。会員には、新型コロナウイルス感染防止のため、第 60 回と同様、書面による出席を呼びかける。

[5 - 2] 理事会

定例理事会は、8 回の開催を予定している。2022 年 6 月 11 日（土）社員総会までの理事ならびに監事は次のとおり。

理事：畑野研太郎（会長）、大友宣（常務理事）、植松功、小宅泰郎、久保礼子、
名取智子、本田まり、森田隆、柳澤理子

監事：榛木恵子、渡部芳彦

2022 年 6 月から 2024 年 6 月の理事候補者 10 名および監事候補者 2 名の選任を 6 月 11 日の社員総会に諮る。

[5 - 3] 委員会

2020 年 6 月に組織された各委員会（財務委員会、奨学金委員会、地区ボランティア活動委員会）は、理事会の諮問を受け、実務的課題から戦略課題を検討した。第 61 回定時社員総会開催日となる 2022 年 6 月 11 日以降の最初の定例理事会の日をもってその任期を

終える。総会で選出される理事による新理事会より、必要に応じてまた諮問をおこなっていく。

[5-4] 事務局

事務局長・海外事業部長・マーケティング部長 森田隆

事務局次長・管理部長 名取智子

東京事務局 浅見有希子、飯田多香子、石金祐実、小池宏美、高橋淳子、
滝澤さおり、竹内里佳、森田真実子

関西事務局 江川由美